

福田寺だより

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 恒惺 田 圭寸

住職 橋 本尚信

実の如く自心を知る

—— 幸せに生きるとは? ——

真言宗の根本教典の一つである『大日経』に説かれている事を一言でいうと「如実知自心」であると学生時代に教えられました。この言葉は長い間、頭のどこかにいつも在ったような気がしています。住職となりいろいろな人から相談を受ける立場になり、病気のこと、家族のこと、人間関係のこと、お金のこと、等々様々な悩みごとの相談を受けて来ま

したが、その相談ごとを集約すると「如何にしたら幸せに生きることが出来るか」という事のようにです。人が望むことに対して応えるものが宗教であるならば、『大日経』で説かれている『如実知自心』が「如何にしたら幸せに生きることが出来るか」という問に対する答えのほずです。『如実知自心』を口語体で言う「実の如く自心を知る」という

ことになります。「実の如く自心を知る」とは一体どういう事なのでしようか・・・?

私たちは日常会話の中で、「自分の事はよく分らないから」などと軽い気持ちで言ったりします。確かに軽い気持ちでも重い気持ちでも、自分の事はよく解らないものです。どうしたら自分の心を知ることが出来るのだろうか。

真言宗には、『阿字観』（あじかん）という座禅（瞑想法）が伝えられています。この修法が自分の心を知るための修法として最も適しているのではないかと思います。密教の一字禅といわれるもので、座禅し、息を整え瞑想に入ります。そして自分自身を宇宙にまで広め、やがて再び自分自身に収めて行くというものです。

私の周りの全ての出来事、現象は私を感じる事により起きています。私が無ければ全ての現象は無

資料を持って巡る布教活動でした。北部の村ではまだ電気が無く、夜になると村ごとの発電機のモーターの音が大きく鳴っていたのが思い出されます。また、夜風に乗ってパイナップルの甘い匂いが漂ってきたことや、案内役をしてくれた方が運転しながら、ハブ取り用の道具を見せてくれた時の驚きもなつかしい思い出です。あれから三十八年、沖縄は復帰とともにめざましい発展を遂げて来ました。今年年間六百四十万人（

沖縄県民を除く）が行き来しています。同時に沖縄の宗教事情は、過去の土着の宗教と、現在の沖縄県民が求めている宗教への要望との隔たりが生じていて、丁度過渡期にあり、沖縄のご寺院・住職にとってはやりがいのある時期にあるのではないかと感じられます。いろいろな意味を含めての今回の沖縄団参旅行です。申込み締切りが近づいています。どうぞ奮ってご参加ください。

多た宝ほう塔とうの美みししささ

* * * * *
* * * * *
* * * * *

日本の寺院にはたくさん塔が建てられています。五重の塔、三重の塔が多いようですが、二重の塔であ

る多宝塔も西日本地域には随分と見られます。五重の塔では、大きさ、重厚さ、歴史性、美しさでひときわ

他に類を見ないのは、京都・東寺の塔でしょう。二重の塔（多宝塔）で美しさを誇るのは、高野山・金剛三昧院のものかと思えます。

勿論、他にも素晴らしい塔はたくさんありますが、住職は、高野山時代は金剛三昧院で生活をし、今、本山である東寺に通う身として、日本を代表するこの二つの塔を仰ぎながら歩んできた人生に、何かしら不思議な縁を感じています。

塔は元来 お釈迦様の舍利を祀るストウーバがいろいろと変化、発展してきたものですが、寺院などの聖域の中心を示すものであることには変わりありません。日本文化の粹を代表する社寺建築の中でも、塔の建造は最もその力量が問われるものかと思えます。いつか関東の地にも、人々の心を魅了する美しい塔が建造されることを願うものであります。

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

恒例の新年厄除け護摩を一月八日

記

午後一時より修行致します。護摩を

焚く修行は、近年いろいろな所でさ

れていますが、正統に受け継がれて

いるのは密教寺院であります。福田

寺は、京都・東寺を本山とする真言

密教の寺で、創建以来八百七十年、

密教寺院としての歴史を刻んで参り

ました。

檀家以外の方でも勿論結構ですの

で、皆様お揃いで新年の護摩供養に

お参り下さい。

平成十九年厄年

男性

前厄 昭和四十二年生まれ

本厄 昭和四十一年生まれ

後厄 昭和四十年生まれ

女性

前厄 昭和五十一年生まれ

本厄 昭和五十年生まれ

後厄 昭和四十九年生まれ

二九日祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉

を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職に

より新年の御祈祷が修法されま

す。ご自由に参拝ください。

昔暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、

暮れのお参りの時に、本堂入り

口に用意された納め場所に納め

て下さい。特に大きなものや、

燃えないものは、寺の者に連絡

してください。

年回のお告知りせ

来年度の年忌(年回)法要の

張り紙を本堂に掲げておきます

ので暮れのお参りのときに自分

の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要

の日取りを早めに連絡して下さい。